

《プロローグ》

とき せいれき 西暦 2025 年。日本は空前 くうぜん のプログラミングブームによって国民の三人に一人がプログラマー ある 或いはそれを志望 しぼう する学生で溢 あふ れていた。Visual Studio 2025 は今、最も使われている統合開発 とうごうかいはつかんきょう 環境である。

作品 No.02

ビジュアルスタジオラーメン

「Visual Studio Advent Calendar 2015」(書き下ろし)

2015 年 12 月 24 日 (太平洋標準時)



「加藤さん」

「はむ」

「何食べてるの」

「サンドイッチです」

「ラーメン屋のバイトなのにお昼にサンドイッチ食べるんだね……」

「何か」

「いや……いいんだ。それよりちょっと話が。サンドイッチ食べてからでいいから」



「実は……今月いっぱい辞めてもらいたいんだ」

「そんな」

「本当にごめん」

「なぜですか」

「加藤さんもう知ってるとは思うけど……。駅向こうの新しいラーメン屋のせいでお客さんがかなり減へっちゃってね。このままだと店が立ち行かないから……」

「私か店長のどちらかが辞めなければいけないと……」

「君がだ」

「じゃんけんで」

「君、調理できないだろう」

「店長だって注文取れないでしょう」

「それは……いや、取れるよ」

「だからこのお店には……二人とも、絶対に必要なんです」

「取れるってば……」

「店長。簡単に諦めあきらちゃダメです。考えましょう？ 私たちの大切なお店を、『ビジュアルスタジオラーメン』を守る方法を」



「ラーメン屋さんにお客が入らないということは、ラーメンに問題があると思うんです」

「加藤さんは大体いつも酷ひどいよね」

「では店長。ラーメン作ってみてください」

「できたよ」

「ふむ。…思ってたんですけど、これ『ビジュアルスタジオラーメン』じゃないですか」

「そうだね。『ビジュアルスタジオラーメン』だね」

「…どこがですか?」

「良い質問だね」

「どう見ても一般的な普通の塩ラーメンじゃないですか」

「…ネーミングに特に意味はないんだよ」

「流行りに便乗しただけでしょう?」

「その通り。その通りなんだけどね、僕昔プログラマーだったんだ。で、転向してラーメン屋始める時に勢いでね」

「なんでプログラマー辞めたんですか?」

「膝に矢を受けてしまっただけ」

「ちゃんと答えてください」

「加藤さんは結構厳しいよね…こんなにもプログラマーが一般的な職業になるとは思ってたなかったからね、個性が失われるのが恐くてやめたんだよ」

「へえ」

「えっ、自分から聞いておいて……まあいいけど……そういえば君も三年ぐらい前までプログラマーだったよね」

「ええ」

「なんで辞めたの？」

「今更訊いまどろきくんですか店長。どうして面接めんせつの時に訊かなかったんですか」

「だってその時は触れちゃいけない過去もあると思ってさ……」



「えー…加藤さん、それはマジなの？」

「私嘘うそはつかない主義しゅぎなので」

「よく訴うったえられなかったね」

「そんな大事おおごとですかねえ」

「いや大事だよー！ 一体どこの世界にコンパイルが通らないからって関連する部分のソースコード削除しちゃうプログラマーがいるのよ」

「なんでバレちゃったんですかねえ」

「いやバレるでしょ。バレるよ。普通の会社なら当然でしょ」

「聞いてもまた分からない事でできますし」

「いや聞くんだよ。嫌なら勉強するんだよ」

「納期のうきに間に合わせないとダメですし」

「だからって消すのは常軌じょうきを逸いっしてるよ」

「とにかく私はプログラマーに向いてなかったみたいですよ」

「面接の時それを知ってたら雇やとわなかったよ」

「そんなひどい」

「ひどいのは君だ」

「でもこの三年間私たち仲良くやってきたじゃないですか」

「もう言葉にできないよ」



「とりあえず改あらためて試食してみましよう」

「もう冷めたる」

「麺めんも伸びのびて不味まずいです」

「そりゃそうだろ、作り直すよ、しょうがない」

「いや別にいいです」

「いいのか」

「あんまりラーメン好きじゃないから……」

「君の問題だろ、完全に君の問題だろ」

「まあでもどうあがいても一般的な塩ラーメンですよ。味も見た目も」

「そう作ってるからね」

「これじゃお客さんも飽あきます」

「どうすればいいの」

「工夫くふうが足りません。アイデア勝負の時代です」

「そうかあ……」



「まずは麺です」

「どうするの」

「スパゲッティを使います」

「え、その心は？」

「スパゲッティーコード」

「は？」

「プログラマーなら避けては通れない道です」

「よく分かんないけど」

「しっかりビジュアルスタジオに絡めていかなないとイケないですから」

「そんなドヤ顔されても、全然だからね」



「麺の次は具をどうにかしていきましよう」

「チャーシュー、海苔のり、メンマ、味玉あじたまの何が問題なの…？」

「いいえそうではありません。今私たちには、全く新しい発想はっそうが求められています」

「材料は？」

「にんにく、ベーコン、生しいたけ、玉ねぎ」

「僕のラーメン全否定ぜんひていだ」

「にんにくはみじん切りにします。ベーコンは薄切りうすぎです。生しいたけ三枚、玉ねぎ適量てきりよう」

「元の面影おもかげが全く無いんだけど」



「いよいよラスボスですね」

「スープか」

「あんまり美味しくないの……」

「加藤さんは割と度を越して酷いよね」

「ここまでストリートにフィードバックできるのは私ぐらいですよ？」

「それはそうかもしれないけどね……」

「使うのはこちらです」

「デルモンテ・完熟ホールトマト？塩ラーメンだよねこれ？」

「あとお醤油を少々」

「加藤さん」

「完成です」

「加藤さん」

「店长……もしかして私たち、一つの答えに辿り着いてしまったのかもしれませんが……なんでしようか、このフィット感……まるで遠い昔からこの一皿を知っているような……」

「トマトパスタ」

「あー」

「せめて麺は戻そうじゃないか」

「あんまり美味しくないのに」

「いやだ！ 麺は残す！ これだけは譲れない！」

「なぜそこまで麺にこだわるんです」

「それは……ラーメンだから……かな」

「納得できません」

「できないかなあ……」



「いいですか店長、世界というものは日々新しく刷新さっしんされているんですよ。たとえばアジュールポータルAジュールポータルを見てください。一昔前のイビザイビザとは見た目が全く変わってしまっているではないですか。しかし大衆はこれを受け入れています。押し寄せる変化を恐れてはいけな

「でもラーメンにスパゲッティを使うのは、アジュールポータルでエーダブリューエスを管理

してるようなものじゃないかな……」

「大昔あったアジュールウェブサイトでですか？」

「もういい」

「わかりました、わかりました。では特別ですよ。麺だけ普通の中華麺に戻しましょう」

「ありがとう、ありがとう」

これこそが関東一円にチェーンを展開する『ビジュアルスタジオコーדרラーメン』（旧・ビジュアルスタジオラーメン）の、看板メニュー誕生の瞬間であった。

終

※この作品はフィクションです。登場する人物・団体・名称等は架空または仮想上の存在であり、実在のものとは一切関係ありません。

※この作品は『野崎まど劇場』の『苛烈、ラーメン戦争』のパロディです。

Visual Studio とはあまり関係ありませんが、Windows 10 及び Windows Server 2016 よりリモートデスクトップでリモート越しにペン入力および筆圧がサポートされるようになりました。本作品中の絵図は Surface Pro 3 のペンを使いリモートコンピューター上で描画したものです。これによりペンのデバッグに Remote Debugger が不要になるなど大変便利になりました。詳しくは下記記事をご覧ください。

▶ <http://blogs.msdn.com/b/rds/archive/2015/07/22/introducing-pen-remoting-for-windows-10-and-windows-server-2016.aspx>